

# 平成22年度奥尻町離島漁業再生支援交付金事業の公表について

町では、離島漁業の再生を図るため「離島漁業再生支援交付金事業」に取り組んでいます。

この事業では、漁業生産力の向上や漁業集落の創意工夫を活かした取組みを推進することで、離島漁業の再生や海域環境の保全等といった多面的機能の維持増進を図るものです。

また、関係要領等の規定により昨年度実施した取組みの内容を次のとおり公表します。

協定対象 漁業世帯数	175世帯	交付金額	23,800千円
漁場の生産力の向上に関する取組状況	<b>平成22年度実施した取組事項</b>		
	取組内容	取組の成果	取組成果の説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ウニ深浅移殖放流 (内容) ウニ深浅移殖放流は、潜水器漁業により深場に生息しているウニを漁場となる浅場へ移殖することで未利用となっていた資源の有効活用を図る取組みです。</li> </ul>	120万個	今年7月から実施のウニ漁における生産力の向上が期待されます。(昨年9月に実施)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アワビ種苗放流 (内容) アワビは島の特産品であるが、最近では、異常気象など様々な要因により資源の減少が深刻な状況となっています。このため、アワビ資源の回復のため種苗放流を計画し、過去の放流実績等を踏まえ、効果の高い放流方法を検討しながら種苗放流を実施した。</li> </ul>	5万個	高い種苗放流効果を期待し、漁協青年部の潜士による海底での種苗放流を実施した。これによりアワビ資源の回復と次期アワビ漁での水揚げの増加が期待された。(アワビ漁の漁期は5～7月) また、放流効果を検討する際の資料とするため、前年度までの放流箇所において追跡調査を実施し成長の状況などを確認した。	
集落の創意工夫を活かした取組状況	<b>平成22年度実施した取組事項</b>		
	取組内容	取組の成果	取組成果の説明
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヤリイカ試験操業(棒受け網漁) ヤリイカ棒受け網漁は、20年程前まで安定した水揚げ実績があったものの、ヤリイカの来遊変動が大きく水揚げが不安定であるため、近年は操業を控える状態が続いている。しかし、魚種としてのヤリイカは価格が高いことに加え、操業時期もスルメイカ漁と重複しないことから漁業生産力の向上が見込まれる魚種として、積極的に産卵礁を設置するなど資源増大に努めてきた。この中で、ヤリイカの資源状況を把握する調査として毎年5月下旬に潜士により産卵礁の産卵状況調査を実施してきた経緯があり、昨年は良好な成果を得ることができたものの水揚げに繋がらない状況となっていた。こういった経緯から、漁期にどの程度の水揚げがあるかを把握(試験操業)し、良績があれば他の漁業者の操業意欲の向上(本操業)に繋がるものと期待し活動を計画した。</li> </ul>	延べ調査回数1回	当該年度の活動日数は1日であり計画日数(20日)と比較し、少ない活動実績となった。 この要因は、操業期において天候が悪かったことと、海水温の低い時期が続いたため(良績を上げる見込みが低かった)試験操業を控えたことが理由として挙げられる。 今後について、ヤリイカは来遊変動が大きいことから試験操業を継続して行い、来遊状況(水揚げ)についての情報提供を実施する。また、ヤリイカ漁は島の漁業の柱であるイカ釣り漁(漁期:6月～1月)の閑散期を利用した漁業であり、来遊状況が好調の際には他の漁業者の本操業へ繋がるものと期待している。	